

笛吹社協だより

かけはし

三月飯【さんがつめし】

芦川地域では数百年前から、ひな祭りで飾ったひし餅を子供達が河原で野菜などと一緒に煮てみんなで楽しく食べるといった行事がありました。地域福祉推進委員が中心となり、地域の方々と笛吹社協の1地区1良いとこ事業の協働により、伝統復活させた行事です。

平成25年6月30日(日)



倉嶋市長へのインタビュー

▶▶▶ P4~P5

CONTENTS ～ 目次 ～

P2 ▶▶ ● 平成24年度事業報告/決算報告

P3 ▶▶ ● ハートランドふえふき祭りを開催
● やってみるじゃん協力員養成講座参加者募集
● 第8回 フードドライブ

P4 P5 ▶▶ ● 特集：笛吹市の地域福祉について市長にインタビュー

P6 ▶▶ ● 介護予防事業(やってみるじゃん) ボランティアさんの紹介

P7 ▶▶ ● 倉嶋市長コラム 桃源郷
● 新人社協職員から見た笛吹社協を紹介

P8 ▶▶ ● 障害者地域活動支援センター「ふえふき通信」



発行 社会福祉法人 笛吹市社会福祉協議会

住所／〒406-0822 笛吹市八代町南917 電話／055-265-5182 FAX／055-265-5183

広報「かけはし」には、赤い羽根共同募金の配分金が活用されています。

発行責任者：社会福祉法人 笛吹市社会福祉協議会 会長 網倉義久



平成24年度 事業報告

地域福祉は、大きく舵をきり、新しい公共という概念のもと、民間の力を活用する方向で動き始めています。その背景には、少子・高齢化の進行や世帯人員の減少などの生活環境の変化に伴って地域社会や家庭の機能が大きく変化し、さらに経済情勢や雇用環境の厳しさの長期化も相まって、引きこもり等の社会的孤立の問題、子どもや若年層の経済的困窮や低所得の問題、さらに権利擁護の問題など地域における生活課題があまりにも多くあるという現状があります。平成24年11月には全国社会福祉協議会が「社協・生活支援活動強化方針」として、地域における深刻な生活課題の解決や孤立防止に向けた社協活動の方向性として、

- ①あらゆる生活課題への対応 ②相談・支援体制の強化 ③アウトリーチの徹底
④地域のつながりの再構築 ⑤行政とのパートナーシップ の5項目を示しました。

笛吹社協はこうした背景の中、今日的な地域福祉の課題を受け止め、住民からの相談を待つのではなく、訪問活動による課題の発掘（アウトリーチ）と、そこで顕在化した問題を、地域の民生・児童委員や隣近所の方など地域の方々と共に解決に当たることに力を注いでまいりました。このような活動は当広報誌などでも紹介をさせていただいておりますが、地域から頼りにされる社協として少しずつではありますが前進していると感じております。

介護保険事業につきましては、小規模事業所が多数進出する中で競合が激しくなっておりますが、職場でのOJTや勉強会、外部研修会への積極的な参加などにより職員資質の向上を行い、より質の高いサービスの提供により他事業所との差別化を図ってまいりました。さらには社協内連携の強化を図る中で、福祉サービスだけでは解決し得ない問題に、地域のボランティアとともに関わり、介護事業所として制度の狭間の問題にも対応をしてまいりました。

組織運営では、職員の意欲や能力の向上を促し、職場を活性化することを目的に人事考課制度を導入し、自主的な活力ある職場を目指し、運営してまいりました。

重点として取り組んだ事業は、右記のとおりです。

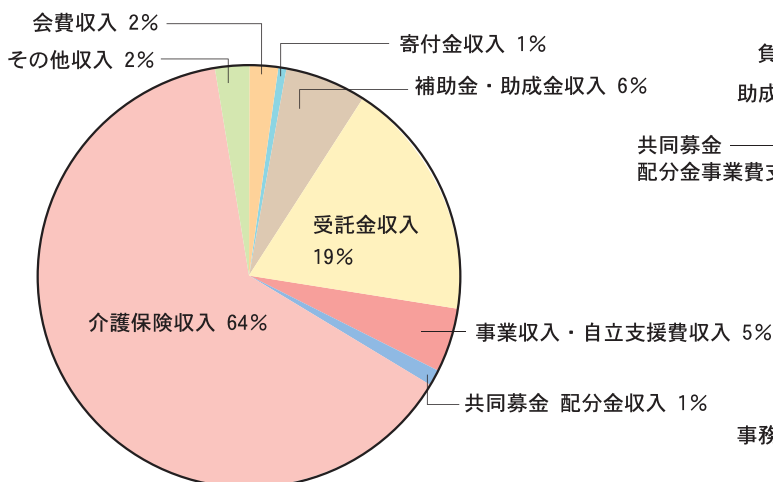
- 【1】社協内各部署の連携による業務内容の充実
- 【2】地域実態の把握と住民同士のつながりの発展
- 【3】ボランティア活動への理解と参加促進
- 【4】必要な地域情報整備と提供
- 【5】介護保険事業の適切な経営とサービスの向上

平成24年度 決算報告

収 入

(単位:千円)

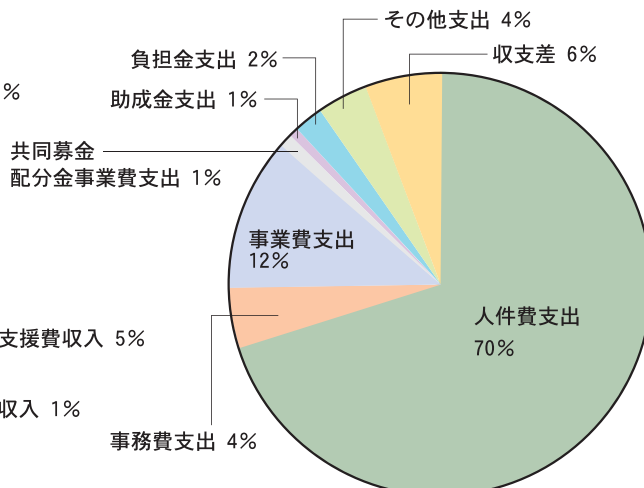
項 目	金 額	比 率
会 費 収 入	17,745	2 %
寄 付 金 収 入	2,755	1 %
補助金・助成金収入	49,154	6 %
受 託 金 収 入	148,420	19 %
事業収入・自立支援費収入	38,904	5 %
共同募金配分金収入	8,819	1 %
介 護 保 険 収 入	509,314	64 %
そ の 他 収 入	19,542	2 %
計	794,653	



支 出

(単位:千円)

項 目	金 額	比 率
人 件 費 支 出	558,748	70 %
事 務 費 支 出	35,741	4 %
事 業 費 支 出	92,419	12 %
共同募金配分金事業費	8,519	1 %
助 成 金 支 出	4,022	1 %
負 担 金 支 出	19,117	2 %
そ の 他 支 出	29,487	4 %
収 支 差	46,600	6 %
計	794,653	



第6回 ハートランドふえふき祭り

平成25年6月1日、笛吹市ふれあいの家を会場に、毎年恒例のハートランドふえふき祭りが開催されました。この祭りは、地域で暮らす障がいを持った方と、地域住民との交流を通じ、地域に障がい者の活動する場がある事を知ってもらうことと、ふれあいの家を知ってもらうことを目的としたイベントです。市長さんをはじめ議員さん、近隣住民の皆さん、地域で暮らす障がい者やその家族の方々等、多くの来場者がありました。

ステージでは障がい者グループのバンド、障がい者のどんどこ太鼓、皆で楽しく踊ったり等々、障がい者が主役のお祭りとなりました。

ボランティアさんがポン菓子無料配布や売り子さんとして、模擬店でも大活躍してくれました。

皆さんの応援に心から感謝を申し上げます。

当日の様子は、笛吹社協のサイトに紹介のブログと動画がございますのでご覧ください。



第6回ハートランドふえふき



平成25年度 介護予防やってみるじゃん協力員養成講座

参加者募集

お知らせ

介護予防事業（やってみるじゃん）は、各地域の公民館活動へ広がってきましたので、これからは自主的な活動につながる取り組みをしていきたいと思ひます。そこで、運営に携わる協力員の方の講座を開催いたします。

【受付期間】 平成25年8月6日(火)～8月20日(火) 【参加費】 無料

【定員】 笛吹市内在住 20名

養成講座終了後、介護予防事業（やってみるじゃん）の協力員として活動していただける方

【日程】 ※講義2日間、実習2回を1コースとする

①講義 1日目：平成25年9月3日(火) 午前9時～午後4時

2日目：平成25年11月上旬 午前9時～午前11時

②実習 2日間：9月～10月、各地域開催（やってみるじゃん）現場実習

【内容】 講義・実技 高齢者の心と体、介護予防の現状、運動・認知症予防・栄養、口腔ケア・レクリエーション等

実習 各地域開催（やってみるじゃん）現場実習

【場所】 八代福祉センター

第8回 フードドライブ

寄付募集

「食」を必要とする方たちへお届けする食品を住民参加で集める取り組みとして「フードドライブ」を実施しています。ご家庭もしくは、職場に眠っている食品をご寄付ください。

【募集期間】 平成25年8月20日(火)～9月3日(火)

【寄付食品】 お米、レトルト食品、乾麺、缶詰など

・賞味期限が明記されていて1ヶ月以上あるもの

・未開封であるもの

・お米は常識の範囲で古くないもの

【収集場所】 笛吹市社会福祉協議会 各地域事務所

【主催】 NPO法人 フードバンク山梨 TEL：055-282-8798



お問い合わせ先

笛吹市社会福祉協議会 地域福祉課

●本所(八代)：055-265-5182

●各地域事務所

石和：055-262-1267

御坂：055-263-0848

一宮：0553-47-2288

境川：055-266-5911

春日居：0553-26-3667

芦川：055-298-2170

特集

倉嶋市長×笛吹社協職員 笛吹市の地域福祉についてインタビュー

はじめに

今回、去年11月に就任された倉嶋市長に、これからの笛吹市の地域福祉についてインタビューしました。市長の地域福祉についての思いやお考えについてお話を伺いました。

双方向による情報公開

社協 荻野（以下：荻）
社協 坂本（以下：坂）
市長になられて生活がどのように変わりましたか？外を歩いていて声をかけられるようになったりはしませんか？

倉嶋市長（以下：倉）
いや、逆に私から挨拶をするようになりましたよ。（笑）それ以外は以前と変わらず、今でも第三のビールを飲み・スーパでも割引の商品を買ったりしていますよ。

荻・坂：私たち市民と同じなんです（笑）
荻：3月の所信表明の時から『双方向からの情報公開』というところを強く進め

何でも
答えますよ！

倉嶋清次市長

福祉・災害・生活等々

いろいろと
お聞きます！



笛吹社協 広報委員
坂本理恵

笛吹社協 次長
荻野陽子

ところに行く人を決めておくこと。いなければ、次の人へと決めておき、安否確認の訓練をすることが大事だと考えています。そして、要援護者台帳が整備されていないとは思えないと思います。一番良い台帳というのは自分たちが使いやすい台帳だと思います。

一時の経済的困窮者、生活弱者、相談者の中にはお子さんがいらつしやる方もいます。昨年は中学校2校の校長先生から「うちの生徒が食事をしていない」という相談もありました。早速、学校の先生や民生委員さんと対応させていただきました。

倉：市内でも食品関係の企業さん（スーパーさん等）で日持ちするものを回してもらえよう、フードバンクにご協力を頂くような仕組みを作るべきですね。

坂：昨年の12月、フードバンクについて市の広報誌に載せていただいた所、前回募集の2倍以上の食べ物が集まりました。これからも市との協働をしていければと思います。

倉：市でも一肌でも二肌でも脱ぎましょう。

『災害に強い安全・安心のまちづくり』について

荻：『災害に強い・・・』についてはどのようにお考えですか。

倉：ある講演で「笛吹市は津波がこないのを避難所よりも家をつぶさないこと、家具を倒さないことが大事。」と聞きませんでした。災害は、その時どうするかが大事だと思います。例えば、区長さんが手順に従って安否確認することや災害弱者の



られています。具体的にどういう風に進めて行きたいとお考えですか？

倉：まず、1つ目は情報公開についてです。ホームページに載せたから情報公開とは考えてはいません。全ての人に情報が届いてこそ情報公開。現状では、どのようにするかはまだ悩み中です。2つ目は、市政の課題になっていることや、議論になっているテーマについて、市民の見えるところで論戦が行われることが必要ではないかという事です。議会で議論になっているものについて、双方の意見がしっかり組み合うような広報誌になれば市民の皆様にも興味を持ってもらえるのではないかと考えています。3つ目は市民参加（パートナーシップ）ですね。これは情報公開を行った先やる内容ですかね。市政の質を最も問われる部分だと思っています。パブリックコメントはインターネットを通じてやっていますが、参加してくださる方はごく一部だと思います。それをもって、市民参加とは言い難いと考えています。

市役所の職員、組織と市民のグループが切れ目なくつながっているような社会で政（まつりごと）が行われているようにしたいです。

『安心していきいきと暮らせ、住みたくなるまちづくり』について



つかい』が大事だと思います。『一人も犠牲者を出さない！』を合言葉にやりたいですね。

荻：笛吹市では民生委員さんがこの地域でも活躍していますね。

倉：これからも、民生委員さんと社協さんがしっかりとタッグを組んで頑張ってください。

荻・坂：ありがとうございます。

市長さんが考えるまちづくり

荻：笛吹社協では、民生委員さんと連携をとり、昨年1年間で180件の相談を民生委員さんからいただきました。経済的な問題が一番多いのですが、全体で地域住民からの相談もあわせると180件もありました。そんな中、市長さんはどういうまちづくりをお考えですか？

倉：家族構成・地域社会が変容している現代は区長さんが毎年替わり、おせっかいをやくとプライバシーの問題と言われ、個人情報保護とも言われます。だからこそ、笛吹社協さんのような社会的に認知された団体が中心になる必要があると思います。しかし、社協さんが全てサポートするのは無理だと思っています。ですから、笛吹市・社協さん・区長さん、地域の世話焼きが連携して地域福祉が成り立っていくべきだと考えています。その形を目指すことで、新しい『まち』の形が見えてくれば良いと思います。また、生活には福祉以外に労働問題もあるので、農業であれば直売所を作っても多く増やしましょう。『働く人を1人荷をする場をつくるなど、『働く人を1人として、福祉的作用もあれば良いと思います。そして地域も明るくなればと思います。』

荻：5つの施策の柱について『安心していきいきと暮らせ、住みたくなるまちづくり』『災害に強い安全・安心のまちづくり』は市民の皆様が特に強いと思います。

倉：以前、私が民生委員をした時、病気で生活に困っている人、高齢で動くことが大変という人が多いと思いました。その時の事も踏まえると、明日の生活・暮らしを悩む市民がいらないような笛吹市にしたいと思っています。

坂：今、笛吹社協に生活困窮の相談がたくさん来ます。フードバンクで食べものをお渡しした件数が、去年は79件ありました。民生委員さんなどに関わっていただき、自立した生活ができるよう定期的にフードバンクを支援しているご家庭が6件ありました。まだ訴えられる人は良いですが、声に出せない方もいます。

倉：フードバンクのような活動が広まり、根付いて、そのような人たちの手助けになるのであれば、と思います。

坂：笛吹社協では生活困窮の方の窓口になり、年間2回フードバンクの集積所となり、市民から食品を頂き、フードバンク山梨さんに渡しています。とにかく、食べるものがないというのは本当につらいと思います。

荻：『観光、農業を中心に・・・』5つの施策の柱の中にありますね。芦川の高齢者はとても元気で、ほうれん草の出荷に夢中なんです。自分たちで作ったものが直売所で売れるのが生きがいのようなのです。

倉：すごいですね！そういう話を聞くと明るい笛吹市の未来が開けていきますね。道路づくりも大事ですが、桃源郷のまちづくりにも投資をしていく必要があると思います。

最後にお願ひ

荻・坂：年4回発行しております、笛吹社協だより『かけはし』に市長のコラムを書いていただきたいのですが、よろしいでしょうか？

倉：いいですよ！ご協力できることは何でもします。

荻・坂：ありがとうございます！

今月からかけはしに
コラム「桃源郷」を
書きます！
→P7



よろしく
お願いします!!

安心して暮らせる
幸せあふれる
まちづくり

笛吹市

笛吹
社協

住民

協
の
役
割

地域づくり

福祉教育

災害対応

相談

笛吹市介護予防事業(やってみるじゃん) ボランティアさんの紹介

“やってみるじゃん”では、下記のようにボランティアの方々の支援もいただきながら開催しています。「やってみるじゃん」に、参加してみたい、見学してみたい等のご希望がありましたら、笛吹社協本所または最寄の地域事務所にお問合せください。

地 域 づ く り

課題

● 人と人とのつながりを強めよう

取り組み目標

● 住民同士のつながりを深めよう

一宮町在住で消費生活相談員の相川昭夫さんは、「消費者問題等について少しでも理解していただき、消費者トラブルを少なくしたい。」という正義感のもと、4年前から市内の“やってみるじゃん”のボランティア講師として、活躍してくださっています。講話の内容は「契約・食品の安全・詐欺・暮らしの危険」等です。今年度も振り込め詐欺をはじめ新しい手口の悪質商法も増加しているの

で、それらの被害防止策や身近な新しい消費者問題等を取り上げて頂けるそうです。



振り込め詐欺
などの
消費者問題の講話

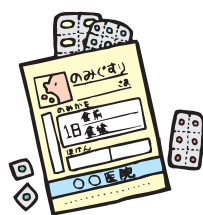


相川さん

暮らしの中の危険に気をつけて!!

ボランティア相川昭夫さん

3年前から、石和地域の“やってみるじゃん”に、石和町市部通りの『沢田屋薬局』専務の早川弘太さんと薬剤師の小野末子さんのお二人が地域貢献の一環として、協力してくださっています。日頃から何の気なしに飲んでる薬ですが、「正しい飲み方」による正しい効果や「誤った飲み方」による恐ろしい健康被害など、小野さんの明るくて丁寧で気さくなお話しに、皆さん熱心に耳を傾けています。「食間っていつで・・・?」「食後飲み忘れた時には・・・?」等々、活発な質問もしばしばで、とても充実した講話を開いていただいています。



楽しく
ゆかいな
薬にまつわる話



早川さんは、「健康のためには、食事と運動と心のバランスが不可欠ですが、まさに“やってみるじゃん”は最適な教室だと思っています。薬も上手に付き合ひ、いつまでも元気に楽しく過ごしていただければ幸いです。」等講話のたびに高齢者の皆さんに声をかけたり、励ましていただいています。



小野さん

早川さん

お問合せ先

◇本所 TEL 055-265-5182
◇石和地域事務所 TEL 055-262-1267
◇御坂地域事務所 TEL 055-263-0848
◇一宮地域事務所 TEL 0553-47-2288

◇八代地域事務所 TEL 055-265-2240
◇境川地域事務所 TEL 055-266-5911
◇春日居地域事務所 TEL 0553-26-3667
◇芦川地域事務所 TEL 055-298-2170

桃源郷

仕事がほしい／仕事を創ろう

仕事がほしい。
働く場所がほしい。
働きたくても働く場所がないというのが一番つらい。

個性、能力に合った職場がたくさん用意されている
世の中にできないだろうか。

税金で仕事を作ることではできるが、一時しのぎでは仕方ない。
それが呼び水になって、仕事が仕事を呼ぶようになれば
最高なのだが、そうは問屋が卸さないのが現実だ。

腹が立つことに、我々が何かをすると、
その都度、お金が東京に流れていく。

テレビを観ても、新聞を読んでも、
クルマに乗っても、買い物をしても・・・
地方が疲弊するのは当然だ。

だから、社長さんがたにお願いしている。
「東京のお金を引っ張ってきて下さい」と。
社長さんがたは、今の経営を維持するだけでも大変だから、
リスクは取れない。

どうしよう。

仕事を創ろう。商品を作ろう。

果物はある。野菜もある。個性的な商品を開発できないか。
売り方は、朝市方式。

ドカンと大きな市を立てて、買物ツアー客を呼べないだろうか。
日本三大朝市に割って入るような朝市が開けないかなあ。
みんながハッピーになるような、そんな市を立てられないのか。
賑わいを取り戻したい。みんなの知恵で。

笛吹市長 倉嶋清次



入社3ヶ月新人社協職員から見た

“笛吹社協”を紹介

今回は平成25年度より笛吹社協の職員となりました猪狩と渡邊に、研修
や日々の仕事を通じて学んだ笛吹社協についての話を聞きました。

荻…笛吹社協に入社して約3ヶ月が経ちま
すが、社協がどういった組織かつかめまし
たか？

猪…社協の財源は行政からの委託金が全て
ではなく、住民の皆様からいただいている
社協会費やデイサービス等の介護収益等に
より成り立っています。営利が目的の組織
ではないため、会費等から得た財源を、地
域住民のニーズに応じた柔軟なサービスの
提供というかたちで地域に還元することが
可能になります。笛吹市民全員の力でより
良い笛吹市を作るための足掛かりとして、
笛吹社協が存在しているということを、研
修等を通じて学びました。

荻…では笛吹社協の強みとはなんだろうと思
いますか？

渡…地域住民の方を対象とした地域福祉課、
障がい者のための支援センター、高齢者の
介護事業所といった3部門がいずれも地域
の方と密着し、
つながりがある
ことです。地域
の方が気軽に立
ち寄ってくださ
ったり、また、ボ
ランティアさん
の存在は本当に
大きいですね。

猪…地域の皆さんの活躍なくしてど
の部門も成り立
たないですね。



渡邊園子
猪狩俊
荻野次長

ちません。どの部門でも共通して持っている
のは「この地域で生活していて良かった」と思
っていただけのような支援をしていくことだ
と、新人研修を通じて感じました。

荻…最後に、二人はこれからの笛吹社協をど
う盛り上げて行きたいですか？

猪…高齢や障がいにより生活のしづらさが生
じることとは誰にでも起こりうることで
あり、いざそのような問題が生じたときでも
それまでどおり普通の生活を送ることができ
るような地域社会を形成することこそが、社
協の重要な役割だと思います。私が配属され
た総務課は笛吹社協の縁の下で力持ちなので、
皆が働きやすい環境を作ること地域住民の
力を引き出せるよう、必要なものを的確に補
える人間になるべく、日々努力していきます。

渡…私は今、障がいを持つ方と過ごす支援セ
ンターに配属されています。まずは利用者さ
んがセンターに来た時に最初に声を掛けても
らえるような身近で親しみやすい存在になる
のが目標です。そしてゆくゆくは、住民の方
が必要としていることを一緒に考え、笛吹市
の住民が持つ支援の力に結び付けたり、掘り
起こしたりといったつながりを強めていける
働きをしていきたいですね。

荻…ふたりとも立派な使命感を持っていて嬉
しい限りです。今言った使命を達成できるよ
う、日々頑張っていきたいと思います。



障害者地域活動支援センター

「ふえふき通信」

「明るく・元気にやっています」



佐野慶子さんレポート

前回のかけはしに出演してくれた佐野さん。今回はその反響はどうだったのか、また出演に際してくれたのはなぜ…？ などについて、話を聞いてみました。

まりな（以下：ま）

佐野さん（以下：佐）

写真、載ってたじゃん！

ま 前回のかけはしが出てから1ヶ月・表紙を飾りましたがその後反響はありました？

佐 ありましたよ！よく行く市内のパン屋さん、当事者会のメンバー、近所の方まで！「（かけはしに）載ってたね」と良く声をかけられるようになりました。率直に、どんな気持ち？

ま 声をかけてもらうのは嬉しいですよ。よく市内のスーパーに買い物に行くのですが、段差がある時、「（車椅子）押しましようか？」と声をかけてくれる人や、引き扉を開けてくれる人がいます。優しさを感じるんですが…

ま ですが…？

佐 「車椅子だから何もできなくてかわいそう、やってあげなければ…」という気持ちで手を出してくれているんじゃないか、と受け取ってしまうこともあって、その時にはみじめな気持ちになります…感謝はしていますけどなるほど…でも相手はそんな風に思っているかもしれないし…

ま …逆に、こういう風にしたいとかあるんですか？

佐 普通に！

ま 普通に…？



こんな生活しているよ、障がいがあっても♪



佐 「車椅子だから外に出られない」

じゃなく、車椅子でも自由に外をうろろろできる地域になるといいなあと思っています。私なんかは、電車に乗って東京も行くし、毎日のように外出していますよ♪

前回のかけはしでは、サポートしてくれる人たちを紹介しました。「こういう生活をしたい」という希望をかなえるための応援団です。

「車椅子だから一人暮らしはできない」「車椅子だから色々な活動に参加できない」「じゃなく、一人暮らしもできるし、社会の一員として参加もできる、そういったことを伝えたくて。」

障がい者の自立に向けた活動をしている「みのあか」に参加したり、笛吹市自立支援協議会の当事者・家族部会にも参加したり、自分の体験したことを積極的に発信しようと思っています。自分が体験したことを伝えることで、同じような境遇の人、同じような悩みを持っている人が、一人でも一歩を踏み出すきっかけとなれば…という思いからです。

ま 障がいがあってもなくても、「こんな生活したい」という思いは誰にでもありますよね。私たち支援センターふえふきの職員も、「本人の気持ちを大切に」その人それぞれの自立に向けてお手伝いしていきたいと思っています。

佐 お願いしますよ〜（〆）

以前は普通に働いていた佐野さん。今回は笑顔で色々な話をしてくれましたが、辛いこともたくさん経験してきました。それでも今笑顔でいられるのは、一人じゃなく、色々な人との繋がりがあからだと思えます。

「車椅子だから道に咲いているすみれの花に気付くことができるんだよ」

「障がい者になったから生まれた出会いもたくさんあるんだよ」「健常者も障がい者も、普通に地域で暮らせるようになるといいなあ…」佐野さんの気持ちが、読んでくれた人に伝わりますように…☆



※みのあか…

佐野さん達が組織した、様々な障がいを抱えた人達が自主的に集まる会。定期的に会議を開き、様々な話し合いを通じて茶話会やボランティア活動等様々な活動を展開している。

※笛吹市自立支援協議会の

当事者・家族部会…

障がいのある人が障がいのない人と共に暮らせる地域をつくるため、障害福祉に係る関係機関が情報を共有し、地域の課題解決に向け協議を行うための会議を開く等の活動を行う。笛吹市は笛吹市協が事務局となり、運営している。協議会は部会に別れ、当事者・家族部会はその一つであり、佐野さんはこの会に自主的に参加。活発な意見を述べている。

上記のお問い合わせは・・・

社会福祉法人 笛吹市社会福祉協議会
障害者地域活動支援センターふえふき

TEL 055-263-1777 FAX 055-263-1769